

[歴史民俗資料館] 経営計画書 (総括表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H25年度計画額 (単位: 千円)		H25年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職員	臨時職員
1	文化財保護事業	B	2,813	30	0.5	1
2	歴史民俗資料館運営事業	B	10,954	40	0.5	1
合 計			13,767	70	1	2

■特記事項

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	1
事業名	文化財保護事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	町内に残っている貴重な文化財の保護・保存に努め、次世代に継承していく。 また、文化財を活用することによって、学校教育・生涯学習に寄与する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の保存と普及 ・ 新規に指定可能な文化財の調査 ・ 町史に関する調査 ・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の継承と普及 ・ ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<p>伝統芸能について、盛り上がりの機運が高まっている地区もあるが、活動を休止する地区が出てくる等、保存・継承が難しい団体もある。また、平成23、24年度と、伝統芸能発表会が2年連続で天候不良により中止となったことも、保存会にとって発表の場が無かったため、モチベーションの低下になりかねない状況となっている。</p> <p>町内に所在する指定文化財及びその他指定されていない文化遺産について、少しでも町民の目に情報が触れるように心がけているが、より効果的な保存・活用方法について検討しなければならない。</p>		
平成25年度の 目標又は 改善策	<p>伝統芸能発表会が雨天中止になったとしても、それを代替するような場を設定することにより、各地区の保存会に発表できる機会を創出する。また、平成21年度より実施している大口北小学校との交流会も引き続き開催し、子ども達への啓発活動も続けていくなど、伝統芸能の維持・発展に努める。</p> <p>指定文化財のみならず、町内に残る貴重な文化遺産についての調査を進めながら、その成果を町民に還元するなど、普及啓発活動も推進していく。併せて、新たな活用方法の検討も実施する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	伝統芸能の保存・継承
5	学校連絡会等により、伝統芸能の活用事例（大口北小学校）を宣伝し、他の小中学校に活用の提案をする。
6	伝統芸能保存会会議内において、各地区の現状を聞きとり、今後の活動に向けての議論を実施。
10	伝統芸能発表会の開催
11	大口北小学校との交流会。他の学校でも条件が整えば実施する。
	文化財の普及啓発活動
8	文化財に関するイベント・講演会等を検討・実施。 その他、文化財の認知度を高めるため、その啓発と活用について研究し、逐次実施。 文化財マップを活かした啓発活動についても適宜検討し、実行する。

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
H27 年度	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	5, 4 2 1	2, 9 6 7	2, 8 1 3
(内特定財源)		千円	1, 3 7 2	3 0	3 0
人工	職員	人工	0. 5	0. 5	0. 5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1. 5	1. 5	1. 5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位: 千円)

特定財源名称	金 額	備 考 (充当先等)
その他	3 0	町史、遺跡報告書等売払い
合 計	3 0	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位: 千円)

種別	項目 (科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

今年度の伝統芸能発表会について、大口町伝統芸能保存会会議内において議論したが、日程の都合や雨天時の代替場所の問題等により、例年どおりの開催予定とした。しかし、天候に恵まれず、結果として雨天中止となってしまった。大口北小学校の連携授業「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」は無事開催することができ、発表会が中止となった分、保存会の方々の活気が素晴らしく、参加した児童も大変喜んでいて。また、伝統芸能保存会会議内では、各地区における保存会の現状等の意見交換を行い、活動の維持・継続ができるような案を模索した。

文化財の保護、町民への啓発活動は、コミュニティバスの時刻表に文化財情報の掲載や、役場内にパンフレットを配置するなど継続して実施し、生涯学習講座と連携して、町内の史跡を巡るツアー開催。指定文化財である秋田天神社のマメナシ樹勢回復作業も、昨年度と同様に樹木保護関係を専門とするNPO法人と地元の氏子の方々と連携して進めた。

■ 評価

秋の伝統芸能発表会は、ここ数年雨天により中止となっている。保存会の方々と雨天時の代替場所も検討したが、やはり小口城址公園で開催したいとの思い入れが強いため、次年度は予備日を設けるなど、場所はそのままで日程を調整した方法を模索していかなければならない。大口北小学校での連携授業は毎年児童に大変好評であり、担当以外の教職員にも浸透しつつある。この活動は継続して行う必要がある。この活動をきっかけに、各地区の保存会にも活気をもたらすよう努力していく。

文化財への啓発活動について、今年度は生涯学習講座と連携して実施することができた。マメナシの樹勢回復作業や昨年度における余野区での連続講座も含め、開催する形態は様々ではあるが、町民に対する普及啓発活動を次年度以降も進めていきたい。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	2
事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	先人の培ってきた過去の営みを現在に伝え、郷土「おおぐち」にまつわる事柄や、美術分野の展示などにより、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の授業やグループ学習、休日の子どものための学びの場として、家庭・子どもの教育に貢献する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の企画展開催 ・常設展示室の管理 ・展示解説及びそれに係る調査研究 ・文化財収蔵庫の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品の電算登録と管理 ・学校授業での見学受け入れと出前授業 ・学芸員実習生の受け入れ（一週間） ・年報、展示図録、研究紀要等の発行 		
現在における経過又は課題	<p>季節ごとに年4回開催している企画展のうち、春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は、展示にちなんだ衣装を着て写真を撮るコーナーが好評となり、大変多くの方々に利用していただいている。この2本の企画展を中心に、来館者数をさらに増加し、歴史民俗資料館の存在を認知してもらう必要がある。</p> <p>小中学校との連携については、授業での資料館・文化財収蔵庫の利用、グループ学習等で利用していただいているが、さらなる連携強化が望まれる。</p> <p>文化財収蔵庫内における収蔵品（主に有形民俗文化財）の電算登録と整理は、平成24年度より改めて計画を策定し、実施している。この事業を継続し、収蔵品の有効活用を拡充しなければならない。</p>		
平成25年度の目標又は改善策	<p>企画展の内容は、地域に根ざしたもの、住民参加型の展示、学校との連携がとりやすいテーマなど、来館者がさらに増加するような展示を目指し、町民への資料館の認知度を深めていく。また、宣伝方法についても、これまで実施してきた方法を踏まえた上で、新しい方法も模索する。</p> <p>小中学校との連携をさらに深めるため、学校連絡会での周知など、積極的に事業提案を実施する。</p> <p>文化財収蔵庫内の収蔵品電算登録及び整理については、平成24年度の時点で北棟・南棟1階を実施したが、今年度は南棟2階にある収蔵品について進めていく。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	学校連絡会等で、資料館と連携してどのような事業を展開できるのか提案を実施する。
5	各小中学校へ出向き、直接担当の先生に事業を提案しつつ、現行の指導要綱でどのようなニーズがあるのか聞き取りをする。
6	3年生及び4年生の授業「公の施設」や「昔の道具」で資料館を活用
10	中学生のグループワーク等による活用
	年4回の企画展の充実及び宣伝方法の拡充を目指す。 企画展をより町民が身近に感じやすいテーマ・展示方法を検討する。
	文化財収蔵庫内の収蔵品（特に南棟2階）の整備を推進。

□3年間の目標

目標	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
H27 年度	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	11,499	11,203	10,954
(内特定財源)		千円	193	40	40
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1.5	1.5	1.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	40	図録等売払、広告収入
合計	40	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

年4回開催する企画展のうち、春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は昨年度と同様継続して実施。夏の企画展は町内の小学校をテーマに企画展し、秋の企画展は文化財収蔵庫そのものにスポットをあてた展示を開催。秋の企画展では限られた日数ではあるが、文化財収蔵庫内の解放を実施した。企画展の周知方法として、従来のポスターに加え、地域限定のフリーペーパーに多く掲載してもらうよう進め、町内外問わず情報が目に触れる機会を創出した。

小学校3年生の授業「むかしのどうぐ」という単元において、資料館内で実物を見学・体験できる内容を実施したことに加え、小学校をテーマにした夏の企画展を見学してもらう授業も開催。児童たちが、なるべく「本物」と向き合うことができる内容に努めた。

文化財収蔵庫内の収蔵品整理は、南棟2階にある収蔵品を中心に実施した。

■ 評価

春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は、昨年度よりも来館者が増加しており、毎年恒例の企画展に成長した。今後もさらなる増加が見込めるように、サービスの充実や新たな客層の獲得を目指していかなければならない。夏の企画展は、昭和30年代の教室を再現したスペースが大変好評であり、老若男女問わず、教室内で楽しまれている姿が印象的であった。秋の企画展で開催した文化財収蔵庫の解放は、定員40名を大幅に超える101名の方々に参加していただいたため、次年度以降も継続していきたい。年間来館者数は、昨年度より増加し、11,844人であった。平成23年度より過去最高の記録を更新し続けているため、この水準を落とさないように努めたい。

小中学校との連携は、継続・発展できるように努め、授業を受けた児童が郷土の文化遺産を身近に感じてもらえるようにしていきたい。また、文化財収蔵庫内の整理も予定通り進んでおり、収蔵品の活用や建物自体の活用を視野に入れてその方法を模索していかなければならない。